

R6 全国学力学習状況調査 川辺町の結果から（小学校）

◎全般

【国語A】 全国平均正答率を大きく上回った。

- ・『書くこと』『読むこと』『伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項』の項目で全国平均正答率を大きく上回った。
- ・『話すこと・聞くこと』の項目で全国平均正答率をやや上回った。

【国語B】 全国平均正答率を大きく上回った。

- ・『話すこと・聞くこと』の項目で全国平均正答率を大きく上回った。
- ・『書くこと』『読むこと』の項目で全国平均正答率をやや上回った。

【算数A】 全国平均正答率をやや上回った。

- ・『数と計算』『量と測定』『数量関係』の領域で全国平均正答率を大きく上回った。
- ・『図形』の領域で、全国平均正答率とほぼ同じであった。

【算数B】 全国平均正答率を大きく上回った。

- ・『数と計算』『量と測定』『図形』『数量関係』の全ての領域で全国平均正答率を大きく上回った。

【理科】 全国平均正答率とほぼ同じであった。

- ・『物質』『地球』の区分で全国平均正答率をやや上回った。
- ・『エネルギー』の区分で全国平均正答率とほぼ同じであった。
- ・『生命』の区分で全国平均正答率をやや下回った。

【児童質問紙】

- ・『自己有用感』『自己肯定感』『規範意識』『正しい生活リズム』などの意識が高いという結果となった。
- ・『地域参画』『自主学習』『学習を生活の中で活用すること』『自分の考えを自信をもって表現すること』などの意識が低いという結果になった。

◎各問題の正答率から

【国語A】

- 文章読解で、文章の内容がしっかり理解できている。
- 文章の構成の工夫を正しく理解することができる。

- 『敬語』を正しく使うことができる。
- 『慣用句』の意味と使い方が理解できている。
- 『漢字』の正しい活用ができる。(例「せつ極的」積？績？責？)
- 無回答率が非常に低い。

【国語B】

- 話し合いの参加者として、発表者の発言の意図が正しくわかる。
- 記述の無回答率が低い。
- 必要な部分を文章中から抜粋したり、ふさわしい言葉を用いて文章を書くことができる。
- ▲「自分の考えを入れて記述する」ことに弱さを感じる。

【算数A】

- 数直線図の数量関係が理解できている。
- 割合を正しく求める立式ができる。
- 1㎡あたりの人数を正しく求めることができる。
- 式が導き出した答えが何を示すのかを正しく捉えている。
- 円周の求め方・百分率の求め方などの知識がある。
- ▲円周率そのものの意味を理解していない。

【算数B】

- 図形の特徴を正しく理解している。
- 記述の問題の無回答が非常に少ない。
- 日常生活の問題解決のため、示された情報を解釈し、計算することができる。
- 与えられた情報を整理し、条件に合うものを判断することができる。
- ▲2つのグラフを比べながら、大小関係を判断することに弱さを感じる。

【理科】

- 「関節」「たい積」などの理学的用語を活用できる。
- 事象の変化について、根拠をもって説明する表現力がある
- 「ろ過」の仕方などの実験器具の取扱いを理解している。
- 課題に対するまとめの表し方をよく理解している。
- ▲「電流の回路」についての基礎的な知識に弱さを感じる。
- ▲伸びる筋肉と縮む筋肉の仕組みの理解に弱さを感じる

【児童質問紙】

《全国平均を上回った質問事項》

- 自分にはよいところがある。
- 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。

- 将来の夢や目標を持っていますか。
- 朝食を毎日食べていますか。
- 毎日同じくらいの時間に起きていますか。
- 家で計画を立てて勉強をしていますか。
- 家で学校の宿題をしていますか。
- テレビやインターネットでニュースを見ますか。
- 算数の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。
- 算数の問題の解き方や考えをノートに書いていますか。
- 理科の勉強は大切だと思いますか。
- 観察や実験を行うことは好きですか。

《全国平均を下回った質問事項》

- ▲毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。
- ▲家で予習・復習をしていますか
- ▲地域の人と関わる機会があったと思いますか。
- ▲社会で起こっている事象に関心がありますか。
- ▲地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか？
- ▲地域の大人と接することはありますか。
- ▲自分の考えを発表する機会では、上手く伝わるよう工夫して発表していましたか。

◎考察

- 1 今回の調査での一番の成果は、児童のテストに向かう姿勢である。その姿は、非常に前向きであり、その粘り強さが好結果を生み出したのだと言っても過言ではない。まずは、どの学校もその姿勢を評価し、児童たちのよさとして位置づけていきたい。
- 2 どの教科でも、基礎的な技能が身につけており、表現する力も高い。しかし、その一方で、自分の考えを積極的に発表したり、普段の生活と学習を結びつけて考える力がまだまだ弱い。獲得した知識を自分の生活の中で活かし、自分の考えの根拠になるような考え方ができるようになれば、さらに力を高めることができる。
- 3 普段の生活の中では、ほとんどの児童が学校生活を楽しんでいる様子が質問紙の回答から伝わってくる。課題としてあげられるのは、「地域との関わり」である。学習だけでなく、様々な場面で地域と児童がつながるように手だてを打つことで、よりよい教育環境や人間形成をつくりあげていきたい。

◎全般

【国語A】 全国平均正答率をやや下回った。

- ・『書くこと』『読むこと』の項目で全国平均正答率とほぼ同じであった。
- ・『話すこと・聞くこと』『伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項』の項目で全国平均正答率をやや下回った。

【国語B】 全国平均正答率をやや上回った。

- ・『話すこと・聞くこと』『書くこと』『読むこと』『伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項』の項目で全国平均正答率をやや上回った。

【数学A】 全国平均正答率を下回った。

- ・『資料の活用』の領域で全国平均とほぼ同じであった。
- ・『数と式』『図形』『関数』の領域で全国平均正答率を下回った。

【数学B】 全国平均正答率とほぼ同じであった。

- ・『図形』『関数』の領域で全国平均正答率をやや上回った。
- ・『数と式』『資料の活用』の領域で全国平均正答率をやや下回った。

【理科】 全国平均正答率をやや下回った。

- ・『生物的領域』の分野で全国平均正答率とほぼ同じであった。
- ・『物理的領域』『科学的領域』『地学的領域』の区分で全国平均正答率をやや下回った。

【生徒質問紙】

- ・『地域参画』『教師への信頼』『正しい生活リズム』などの意識が高いという結果となった。
- ・『自己肯定感』『学習を生活の中で活用すること』『自分の考えを自信をもって表現すること』などの意識がやや低いという結果になった。

◎各問題の正答率から

【国語A】

- 文章の構成の工夫を正しく理解することができる。
- 文脈の中の語句の意味などを読み取る力がある。
- 『漢文』の表現と文脈の意味が理解できている。

○『漢字』を正しく読むことができる。

▲文章を要約する力をつけたい。

【国語B】

○文章から引用して理由などを説明することができる。

○問題中の発表者に対する適切な質問を考えることができる。

○グラフから分かることを正しく理解できる。

▲物語文に出てくる登場人物像や、その心情などの読み取りを適切に考える力をつけたい。

【数学A】

○図形の線対称・点対称についての理解ができている。

○図形の内角の和についての理解ができおり、多角形での角度を正しく求めることができる。

○証明の必要性と意味を理解している。

▲基礎的な一次関数についての理解を深めたい。(グラフ・座標)

▲『平面図』『球』『相対度数』などの数学的用語の理解を深めたい。

【数学B】

○ダイアグラムの見方を正しく理解している。

○証明された事柄を基にして、新たな性質を見いだすことができる。

○基礎的な問題について、確実に答えることができる。

▲割合・確率についての理解を深めたい。

【理科】

○光の反射の法則について理解している。

○「アサリの砂出し」など、生物領域の生活に応用した問題に対応することができる。

▲水溶液濃度の高低に関わる理解を深めていきたい。

▲電流の回路、電流・電圧・抵抗などの電気についての基礎的な知識を身につけさせたい。

【生徒質問紙】

《全国平均を上回った質問事項》

○先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。

○家で学校の宿題をしていますか。

○地域の人と関わる機会があったと思いますか。

○地域の行事に参加していますか。

○地域の大人と接することはありますか。

○数学の授業で学習したことは、将来、役に立つと思いますか。

《全国平均を下回った質問事項》

▲自分にはよいところがある。

- ▲将来の夢や目標を持っていますか。
- ▲毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。
- ▲家の人と学校での出来事について話をしますか。
- ▲新聞を読んでいますか。
- ▲観察や実験を行うことは好きですか。
- ▲自分の考えを発表する機会では、上手く伝わるよう工夫して発表していましたか。

◎考察

- 1 国語も数学も、A問題よりB問題の方がよい結果であった。まだまだ十分ではないが学習を生活に応用していく問題に対応する力がついてきたのはよい傾向である。基礎基本を確かに身に付けければ、さらにより結果が期待できる。改善の第一歩は、まず「基礎基本の定着」であると考えられる。
- 2 どの教科でも、困難だと感じると、無回答にしてしまう生徒が多い。無回答率が高く、誤答率が低い問題が多いことから明らかである。あきらめない粘り強さと、立ち向かうたくましさが求められる。
- 3 理科に対する意欲の低下が課題である。観察や実験をする意図を明確にし、その結果から生み出される新たな疑問や解決策が、テストでもよく使われていた『探求』である。授業の基本的な構成を今一度考えてみるよい機会である。
- 4 質問紙の回答から地域に根ざし、ふるさとを愛する心を確実に育みながら町民としての役割を担おうとしている気概が感じられる。また、普段の生活についても、先生と信頼関係を築きながら、正しく生活をしている生徒が多いことがわかる。課題としては、自分に自信がなく、将来への希望もなかなか持てないことが挙げられる。素直に発現できないこともある。また、学習が生活と結びついていないことが意欲の低下にも繋がっているのではないかと考えられる。1に関連して学習の中に、生活経験が生かされるような問題を仕組み、それを追及していく中で、きまりや法則を学び、生きて働く力を身に付けていく。そういった展開をどの教科でも仕組む必要がある。